

令和7年度 次世代創出PBL推進事業
実施報告書【学校課題実践校用】

学校番号	37
学校名	富山県立石動高等学校

学校の現状と課題	① 地域と連携した探究活動の推進 ② ICTを活用した効果的な授業設計と学習評価の推進			
テーマ(特色)	普通科と商業科の教育力を生かし、地域社会を担いグローバルな社会で活躍できる人材育成を目指している。広域から通学する生徒たちに、本校の立地する地域の豊かな自然と歴史的な特色への理解を深めさせ、課題を持って主体的・積極的に物事に取り組み、自ら解決する力を育成することが課題である。また、ICTを活用した学習教材の作成や生徒の成長を促す評価を行うために、さらなる教員の資質向上を図る必要がある。			
設定した「テーマ」の達成状況	① 地域と連携した探究活動の推進 ・1年の9月から「地域探究(小矢部市役所)」、「企業探究(ゴールドウイン)」、「企業探究(三井アウトレットパーク北陸小矢部)」の3つのグループに分かれて探究活動を行った。生徒がこちらから出向いて話を聞いたり、3つの団体から来校いただいてアドバイスを受けたりと、地域の方々からより継続的に支援いただけるようになった。 ・2年生の「市への政策提案会」が2年目となった。市役所と学校とが丁寧に話し合うことで継続的に実施していくための基礎づくりができた。事前に行われた市議会議員の方々との意見交換会では、率直な意見を数多くいただき、その後の探究活動が深まった。 ・商業科の課題研究では小矢部青年会議所との連携により、小矢部市の素晴らしい食材を知ってもらうための商品開発を行った。地域の企業や店舗からの手厚い支援の下、商品開発だけでなく実際に販売しお客様からアンケートをとることもでき、次年度の研究につながるものとなった。 ② ICT活用 ・互見授業や授業研究会において、ICTを用いた授業設計を行い実践した。実践後は教科内で協議し、成果と課題を共有した。			
実施内容(具体的に記入する)	① 地域と連携した探究活動の推進 <1年生> ・富山大学から講師を招聘し、探究活動の仕方や報告書の作成の仕方について1年生に対し講演会を開いた。同講師には、生徒向け講演会の前担当教員に対しても講演を行っていただき、指導の方法等を学ぶことができた。 ・9月から「地域探究(小矢部市役所)」、「企業探究(ゴールドウイン)」、「企業探究(三井アウトレットパーク北陸小矢部)」の3つのグループに分かれ、こちらから訪問したり話しに来ていただいたりしながらから探究活動を進めた。 ・12月には、「地域課題に挑む社会人に学ぶ」と題して、8名の講師を招き、その取り組みから学んだ。 ・1年間の仕上げとなる2月の発表会には、前述した3団体の方に来校いただき発表を聞いていただいてアドバイスを受けた。 <2年生> ・11月に3つのグループが小矢部市長さん及び小矢部市議会議員の方々に対して、政策提案を行った。10月にはその準備として、小矢部市生活環境課職員や小矢部市議会議員6名に来校いただきアドバイスを受けた。 <3年生> ・経済社会、科学技術、健康医療等、6分野のグループに北陸学院大学から講師1名ずつに関わっていただき、探究学習を進めた。 <商業科> ・3年生の課題研究では、小矢部市の特産品を広く知ってもらう目的で、地元の卵・リンゴ等を使ったお菓子「里芋プリン」「メルティグ」「メルギューくん焼き」や「ハニりん石鱈」といった商品を地元企業と協力して開発した。開発した商品は、道の駅メルヘンおやべや三井アウトレットパーク北陸小矢部、クロスランドおやべ等で販売するとともに、購入した方にアンケートで評価してもらった。研究内容は、9月に三井アウトレットパーク北陸小矢部で発表した後、12月には校内で同じ商業科の後輩達に発表した。			
取組による成果(プロジェクト学習推進の観点から)	① 地域と連携した探究活動の推進 ・「とやま探究フォーラム」や「小矢部市への政策提案会」への参加が2年目となり、多くの地域の社会人に自分の考えを伝えたりアドバイスをいただいたりする経験から、生徒の探究内容が磨かれてきた。また同時に教員の指導スキルも向上した。しかしその一方で単なる調べ学習にとどまっているグループも少なくないため、教員の「課題設定」に関する指導スキル向上が求められている。 ・地域の数多くの社会人に講演してもらいその経験談を聞かせてもらっているが、講演だとしても一方通行的な情報伝達になりがちである。せつかくの情報を自分たちの探究活動に活かさない生徒もいるため、今後は社会人の方にグループで探究学習を進めている場に入り込んでいただき、生徒の取り組みに直接アドバイスしてもらうことが必要である。 ② ICT活用 ・各教員が各教科・科目の学習において、生徒が主体的、協働的に学ぶことができるような教材研究と授業改善を積極的に進めた。その際にタブレットや教育用クラウドサービスを用いることで、より効果的に学習を行うことができるような工夫を行った。教材作成や授業展開について、教科を超えた教員同士の意見交換を行う姿も多く見られた。			
対象者(学年・人数など)	全学年 450名、教職員 60名			
実施実績	4月	①大学教員による探究活動講座 ①地域と連携した総合的な探究の時間・課題研究 ②ICTを用いた授業実践		
	5月			
	6月			
	7月			
	8月			
	9月	小矢部市、アウトレット、ゴールドウインと連携しての探究活動		
	10月	小矢部市議会議員との面談		
	11月	①大学教員による探究活動講座	小矢部市への政策提言	互見授業
	12月	地域課題に挑む社会人に学ぶ 商業科 課題研究発表会		
	1月	2学年 まとめ発表会		
	2月	1学年 まとめ発表会		
	3月	↓ 1, 2学年 まとめ発表会 ↓		